

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の5第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月17日
【会社名】	株式会社小僧寿し
【英訳名】	Kozosushi Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 磯村 明彦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地三丁目9番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【内部統制報告書の訂正報告書の提出理由】

平成26年3月31日に提出いたしました第46期（自平成25年1月1日至平成25年12月31日）内部統制報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、金融商品取引法第24条の4の5第1項に基づき内部統制報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

3 評価結果に関する事項

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____を付して表示しております。

3【評価結果に関する事項】

（訂正前）

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

（訂正後）

下記に記載した財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告に重要な影響を及ぼす可能性が高く、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。したがって、当連結会計年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効でないと判断いたしました。

記

当社は、一部の取引業者との仕入取引において、架空取引による不適切な仕入高の計上および支払処理が行われていた可能性があり、その影響が平成25年10月から平成27年5月までの複数年に及んでいる疑義が発生したことを受け、平成27年10月2日に外部の専門家を含む調査委員会を設置し、事実関係の調査を実施いたしました。

当該調査の結果、架空取引による不適切な仕入高の計上および支払処理が行われていた事実が判明し、その結果として不適切な会計処理が確認されました。

当社は当該調査結果及び会計監査人による指摘に基づき過年度の決算を訂正し、平成25年12月期及び平成26年12月期の有価証券報告書、並びに平成26年12月期の第1四半期から平成27年12月期の第2四半期までの四半期報告書の訂正報告書を提出することといたしました。

本件は、当社における発注・支払の業務フローに不備があったこと、利益相反という構造的問題があるにもかかわらず、出向者に出向元への交渉・商材の発注を任せており、これに対する社内チェック体制が不十分であったこと、並びに当社役職員における意図的な不正行為に対するリスク感覚が不十分で、その管理体制も十分でなかったこと等に起因したものと認められます。

以上のことから当社は、全社的な内部統制、全社的な観点で評価する決算・財務報告プロセス及び商品仕入業務のプロセスの一部の脆弱性が当該不適切な会計処理を招いたと認識しており、これらの財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告に重要な影響を及ぼすこととなり、重要な欠陥に該当すると判断致しました。

なお、上記事実は当連結会計年度末日後に発覚したため、当該不備を当連結会計年度末日までに是正することができませんでした。

当社としましては、財務報告に係る内部統制の重要性は十分認識しており、調査委員会の報告・指摘等を踏まえ、再発防止に向けて、以下の改善策を検討・実施してまいります。

- (a) 取締役会の体制充実・強化
- (b) リスク管理体制の再整備及び適切な運用
- (c) 仕入（発注・検品・支払）業務体制の見直し
- (d) 全社的なコンプライアンス意識向上に向けた特別研修の実施
- (e) 企業倫理通報制度の再整備